

第64回 経営協議会 議事要録

日 時 平成30年6月28日（木）14時00分～15時10分

場 所 事務局第二会議室

出席者 澤 和樹 学長、栗原 靖 理事
迫 昭嘉 音楽学部長
桐山孝司 大学院映像研究科長

中村胤夫 委員、福井俊彦 委員
滝 久雄 委員、谷口維紹 委員

陪 席 浜田健一郎 監事、金井 満 監事

安良岡章夫 理事、保科豊巳 理事
松下 功 副学長、岡本美津子 副学長
熊倉純子 大学院国際芸術創造研究科長
佐野 靖 学長特命（社会連携担当）
北郷 悟 学長特別補佐（上野文化の杜担当）
秋元雄史 大学美術館長

欠席者 石田義雄 委員、遠山敦子 委員、高階秀爾 委員、日比野克彦 美術学部長
国谷裕子 理事、光井 渉 副学長、松下 計 附属図書館長、

○ 議長から審議に先立ち、経営協議会の新たな委員等の紹介があり、引き続き栗原理事から事務系幹部職員の異動についての報告があった。

議題

1. 平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）について
議長から標記のことについて提案があり、栗原理事から資料に基づき説明の後、審議の結果、原案どおり承認された。
2. 平成30年度財務諸表（案）について
議長から標記のことについて提案があり、栗原理事から資料に基づき説明の後、審議の結果、原案どおり承認された。
3. 大学会館等再開発I期（国際交流拠点）の整備について
議長から標記のことについて提案があり、栗原理事から資料に基づき説明の後、審議の結果、原案どおり承認された。

報告及び連絡事項

1. 平成31年度国立大学法人等施設整備補助金について
標記のことについて、栗原理事から資料に基づき報告があった。

2. 本学の取組について

○ 澤学長から、芸術文化における本学の近況について報告があった。

(本学の取り組み)

- ・平成30年4月25日：ベルリン・フィルハーモニー・カラヤン・アカデミーと人材育成に係る協定を締結
- ・平成30年4月9日：日本サッカー協会 芸術およびスポーツを通じた社会貢献活動の推進に関する連携協定を締結
- ・平成30年3月12日：台東区とさらなる連携－「音楽分野における台東区長賞創設についての覚書」を締結

(受賞等)

- ・平成30年4月：カンヌ国際映画祭にて大学院映像研究科メディア映像専攻 佐藤雅彦教授と修了生の短編映画がノミネート！
- ・平成30年4月：カンヌ国際映画祭にて大学院映像研究科映画専攻修了生の映画がノミネート！
- ・平成30年4月17日：宮廻正明名誉教授が平成30年度科学技術分野の文部科学大臣表彰を受賞

(要人来学実績他)

- ・平成30年3月15日：林芳正文部科学大臣が東京藝術大学COI拠点を視察
- ・平成30年5月21日：ウズベキスタン共和国文化副大臣一行の来訪
- ・平成30年5月26日～：NHK大河ドラマ特別展「西郷どん」@大学美術館
- ・平成30年5月25日：戸谷一夫文部科学省事務次官がNHK大河ドラマ特別展「西郷どん」を視察@大学美術館
- ・平成30年3月31日～5月6日：東西美人画の名作《序の舞》への系譜@大学美術館

(Topics)

- ・平成30年5月26日：芸術系大学女性教育・研究者シンポジウム
- ・平成30年6月：早期教育プロジェクト（6/23 奈良・6/24 京都）

※懇談事項

◎ 新たな取組、今後の課題等について

澤学長から、本学では今後どのように予算獲得していくかが課題となっており、以下の検討を模索していることについてご意見を伺った。

- ・大企業の幹部候補生を対象としたエグゼクティブプログラムの実施（一部の大学では既に実施）
 - ・本学名誉教授等の人間国宝の方々をシリーズ化で学生対象に講座を持っていただき、外部の方々にも有料にて参加できる仕組み（一部の大学で既に実施）
 - ・学長の諮問委員会的な組織（経済界等で藝大を応援していただける方）の発足
- エグゼクティブプログラムについては、「藝大塾」的なものかと思慮するが、充実した内容（カリキュラム）や対象者等を詳細に検討していく必要がある。
- 平成30年8月に日本橋に「至善館」というイノベーション経営専攻の大学院大学が開校される等様々な経営を対象とした大学等ができていますので、藝大でなければできないようなカリキュラムを提案していただきたい。
- 藝大の取組を常に情報発信していただきたい。
- 地方の公共団体が町興しのテーマとして、藝大（芸術・文化）に対して非常に興味を持っている。
- 藝大の卒業生（サポーターとして）の力を借りる意味でも卒業生名簿の作成をお願いしたい。
- 民間企業のトップの方々から受け入れ等について、企業人（年配と若い経営者）又は若い留學生程、日本は文化的なジェネレーションギャップを感じる。藝大の芸術

という距離感を知った上でないといけない。

- 関東圏に 3,300 の商店会があり、超高齢化社会に入り半分以上はシャッター街といわれているが、近隣諸国の若い方が日本へホームステイをすることを考えたときに商店街の活性化に藝大の力が起爆剤になるのではないか。
- 藝大が今回高い評価を受けたことに敬意を表したいと同時に芸術の重要性について評価された評価委員の先生方にも敬意を表したい。
- 日本学術会議に芸術分野が入っていないので、これからの日本の芸術のあり方について、芸術家や科学者のコミュニティーが社会に発信する、政治や行政に発信するという仕組みが重要。そのためにも東京藝術大学が果たすべき役割が見えてくるのではないか。

※その他

- 熊倉大学院国際芸術創造研究科長より、グローバル時代のアートプロジェクトを担うマネジメント人材育成事業「& Geidai」の報告があった。
- 桐山大学院映像研究科長より、「コンテンポラリーアニメーション入門～現代短編アニメーションの見取り図～2018」の報告があった。
- 北郷学長特別補佐から、「上野文化の杜新構想実行委員会平成 29 年度事業報告書」、「UENOYES」についての報告があった。